

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度第 1 回丸亀市社会教育委員の会
開 催 日 時	令和 6 年 10 月 29 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	マルタス ROOM2
出 席 者	出席委員 ・高橋 勝子・大村 隆史・藤田 裕子・塩田 康廣 中俣 保志・倉田 眉貴子・白川 常俊 欠席委員 金澤 泰宏・久米井 直人・宮武 恵美子 傍聴人 なし 事務局 田中部長・村尾課長・林副課長・白石担当長・田村主任
協 議 案 件	議 事 (1) 第 4 次丸亀市生涯学習推進計画の進行管理について (2) 令和 5 年度社会教育委員の会における協議テーマ「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方について」のまとめについて 報 告 (1) 生涯学習センター閉館と代替施設等について (2) 令和 7 年丸亀市二十歳の成人式について (3) 令和 6 年度市民学級について
配 布 資 料	【資料 1】 第 4 次丸亀市生涯学習推進計画の進行管理表(令和 5 年度) 【資料 2】 生涯学習センター閉館と代替施設等について 【資料 3】 令和 7 年丸亀市二十歳の成人式について 【資料 4】 令和 6 年度丸亀市市民学級パンフレット 【資料 5】 議事(2)令和 5 年度社会教育委員の会における協議テーマのまとめについて
事務局（担当 長）	ただいまから令和 6 年度第 1 回丸亀市社会教育委員の会を開会いたします。 まず初めに、今年 4 月の機構改革及び人事異動によりまして、事務局の名称や人員の変更がありましたのでお知らせいたします。 市民生活部生涯学習課は協働推進部まなび文化課となり、前課長と副課長兼生涯学習担当長が異動となりました。 後任挨拶 次に委員の交代についてお知らせいたします。 校長会よりご推薦いただいております西川委員に代わりまして、令和 6 年度は綾歌中学校、白川校長先生をご推薦いただき就任していただき

<p>委員 事務局</p>	<p>ております。 よろしくお願ひします。 本日の会議は 10 名の委員のうち 7 名の委員にご出席いただいておりますので、丸亀市社会教育委員の会に関する規則第 6 条第 1 項に基づき、本会は有効に成立しておりますことをお知らせします。本日の会議につきましては、次第に沿って進行させていただきますのでよろしくお願ひいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>次第の 2、会長挨拶で初めに会長よりご挨拶をいただきます。 皆さんおはようございます。 皆さん、それぞれご多忙の中、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。 なかなかこの委員の会が開かれないなあと思っております、市の方に催促をさせていただきました。 昨年度まで皆さんといろいろ議論していた内容がどうなっていくのかなあというの、すごい私自身もとても不安に思っておりましたので、お話しさせていただいて、本当にもう半期終わってからになりますけれども本日はどうぞよろしくお願ひいたします。 私共の団体で中学校出前講座とって、助産師さんによる命の講座、赤ちゃん触れ合い教室を実施しております。これたぶん、前年度もお話したと思うんですけど、今年度はその中学校で、自分自身が中学校の時に、赤ちゃん触れ合い教室を体験したという生徒が母親になって、赤ちゃんを連れて中学校に出向いてきて、そういう積み重ねがお母さんの力になって、自身が講師と言ったらすごい語弊があるかもしれないですけど、中学生の子供たちに子育ての大変さや楽しさを伝えるという役割を担っていただきました。これってすごいなあって、私自身も感動しているのですけれども、やっぱり長年やってくるっていうことも大切なことで、伝えていくっていう、重ねていくこと、伝えていくことの大切さをすごく感じたところです。 簡単ですけども、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>ありがとうございます。 それでは、ただいまから議事に入らせていただきます。 丸亀市社会教育委員の会に関する規則第 4 条第 1 項により、会長に議長をお願ひいたします。よろしくお願ひします。 はい。それでは、ここから私のほうで議事を進めさせていただきます。 本日は議事が 2 件、報告が 3 件ございます。</p>

<p>事務局 会長</p>	<p>初めに、第4次生涯学習計画の進行管理について説明を事務局からお願いいたします。</p> <p>事務局説明</p> <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>計画にのっとって、担当課のまなび文化課の事業について主にその事業について説明していただきました。それにつきまして、ご意見ご質問等はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>成果指標で言うと、1の(2)にはジュニアリーダー新たに養成された人数(延べ)とあと2の(4)生涯学習人材バンク登録者数の2点について聞きたいことがあります。</p> <p>まず1点目のジュニアリーダーについてなんですけれども、令和4年から令和5年にかけて、延べ数で10名ということはプラス1名という成果になるかなと思うのですが、この説明について8ページですかね、この文面だけだとどこでその1名が養成されたのかがわからなかったもので、その点について補足の説明があれば嬉しいです。</p> <p>目標値でいうと延べ5年間で25人っていう数字にやや届かない感じもしているので、この対策についてももし考えがあれば教えてください。</p> <p>もう1点が、2の(4)人材バンクですね。</p> <p>これが、1年間で4件減少して、その年間に登録している人数ですね。最終的にはその令和7年度のときに100人の人材バンクの登録ということを目指していると思うのですが、17ページの方では4件減で51件の登録があり、1件の活動がある。</p> <p>やっぱり登録だけでなく、活用が伴うということがすごく大事だと思うので、令和6年度の事業計画の方でも、引き続き周知をした上で活用を促すというふうに定められているのは非常に大事なかなと思いました。</p> <p>この点について、その活用があまりにも登録に対して少ないなという印象があったので、課題というか、なぜこの一件にとどまっているのかっていうところについてももしお考えとか、何かわかっていることがあれば教えてください。</p> <p>先ほど、インターネットの方でもこの人材バンクのページを見てみたのですが、今は登録されている方のお名前とジャンルと簡単な活動指導できる内容についてですが、PDFになって、それをパッと見られる状態だと思うんですが、もし私が利用者だったら、例えばこの人に頼もうかなって思う時の判断基準として、この人がどんな活動をこれまでやってきたかその成果がわからないとちょっと不安ですし、何か団体として</p>

<p>事務局 会長</p>	<p>登録されている場合はその団体のホームページ見たいなとか思うのですが、そのリンクはないのか。なんか余りにも情報が少な過ぎて、少し活用に向かない示し方だなと印象があったりしたので、例えばそういう広報の面で改善できるところとかがあると思うんですけど、そのあたりについて、ちょっと考えがあれば教えていただきと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>どうしましょう。</p> <p>ご質問にお答えしていただくか、とりあえず、質問を出していきますか。</p> <p>どちらがよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局 担当</p>	<p>回答を先にいいですか。</p> <p>ジュニアリーダーの養成の人数につきましては、年度で新たに養成された人数ということでここ表記させていただいておりますので、延べっていうことであつたのですが5年度については、新しく10人養成し、4年度は9人養成しました。</p> <p>表記が申し訳ないですけど、間違っておりますので、延べということだと19人という形になります。訂正いただけたらと思います。申し訳ないですけど、よろしくをお願いします。</p> <p>また人材バンクの活用につきましてですけれども、大村委員おっしゃられた通り広報のやり方、周知につきましては、他にやり方があるなどというのは、こちらとしても思っているところではあります。</p> <p>地域のコミュニティの方の生涯学習推進員さんに、人材バンクに登録している方の周知はさせていただいているんですけども、以前から講師を頼んでいるところに引き続き頼むというような考えの推進員さんも中にはおられますし、人材バンクっていうところを使わずとも、県の無料の講師を派遣するような事業があつたりするのを利用しているというところもございますので、引き続き人材バンクの登録していただいている皆さんの魅力というか、どういったことができるかっていうところにつきましては、もっと具体的に広報できるような形でやっていけたらなというのは、先ほどご意見いただきまして、こちらとしても思いました。</p> <p>人材バンクにつきましては、そういった形で最終目標が100件になりますので、そこに向けて、広報、登録も含め、活用の件数も含めてですけれども、登録目標については登録が100件というところになりますが、活用がなければ登録が増えていかないという部分継続していかないという部分もちろんあると思いますので、引き続きその両面に注力しながら</p>

委員	<p>ら、引き続きやっていけたらなと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>まず1点目のジュニアリーダーが延べで19名だということで、目標値にはかなり近づいていることがわかり安心しました。と同時に、やっぱりそのプラス10名がどこで養成されましたっていうのが、回答の中に見えなかったのだからこれは書かなくていいのかという疑問が浮かびました、それは細かい質問かと思うのですが、あと人材バンクの方に関しては、例えばその具体的に利用者層が想定されているのであれば、生涯学習推進員さんとかコミュニティセンターの職員さんとか館長さんとか、そういう人たちにその使用感というか、どういう情報がここに載っていたら使いやすいですかとか実際にそういう声を聞きながらアップデートする方法をとったりだとか、課内で担当者が頭を悩ませながらやる、というよりは、ぱっとほかの市民だったりこの委員でもいいですけど、声を聞いてそれをパッと反映させるっていうようなやり方でも全然いいのかなと思ったりするので、こっちが文句言うだけのあれになってもいけないと思って。そういうアップデートするための手法というか、やり方みたいなのはうまく取り組んでいけたらなと思ったところでした。私の方で確認したかったことは以上です。ありがとうございました。</p>
会長	<p>コロナが本当に収束したという感じで、人数的な参加人数はかなりアップしているのではないかと個人的に思っているんですけど。</p> <p>皆さん他にご意見とかご質問はございませんか。</p>
委員	<p>前回の会議のときに、今後社会教育の、生涯学習でもいいですけどその課題としてどうするかみたいな聞き取りも委員の中からはあって、今回の報告は概況なので、こういう形で報告いただくのでいいですけど。</p> <p>私の記憶では論点がいくつかあって、例えばA委員からはその当時部活動の指導をどうするかっていうのが時事的なネタであって、学者連携っていうのは言いながらも、具体的に丸亀でそれをどう展開するのかっていうことに関して、課題提起があったと思うのですよね。</p> <p>だから委員からの1つ課題が出たことに即して、この報告っていうのにオプションで口頭でもいいですけどあってもよかったのかなあと思いました。それはB委員からは例えば防災とか、或いはその外国人の方が丸亀に滞在されて、多分統計上は900名ぐらい在留の方いらっしゃると思うのですが、そういう方々との交流や課題というのをどう受けとめるのかみたいな提起もあったと思うのですよね。</p> <p>或いはその今回報告ありましたけど、コーディネーターの育成とか、今後の担い手っていうのをどうしたらいいかは再三議論もあった中で、昨</p>

<p>会長 課長</p>	<p>年度もそこをすり合わせていく講座の中身、議論もあったと思うので、私が思うのはそういう 3 つぐらいは最低限委員からの投げかけが前回あったと思うので、それ以外にもちょっと私は記憶してないとあったと思うんですけど、それに対して課題としてこういうのがあったけどこれは今年度こうでしたみたいな補足があるとうれしかったかなっていうふうには思っています。今それをやってくれとは言わないんですけど。</p> <p>一応議事は毎回とっていただいていますし、それも公表もされているものもあるので、大丈夫と思うのですが、引き継ぎはしていただいているのかなっていう不安もやっぱりちょっとあるので。</p> <p>そのあたりご留意いただけると嬉しいというところと、あと B 委員がさっき指摘されたインターネットの活用に関して言えば、私もちょっと関わっていますけどリンクとオープンデータとか、オープンガバメントっていうジャンルがあって、行政情報の利活用をどうするかっていう点で言うと、PDF 公開って一番グレード下なんですよ。</p> <p>つまり検索も限界があるし、情報動線として決して高いレベルの情報公開していないということなので、これちょっと教育行政だけの問題じゃないんですけど、丸亀市全体でちょっとリンクとオープンデータとかオープンガバメントの他の自治体の事例とかも今いっぱい出ていますから、或いは総務省の情報アドバイザーという、無料無償で行政にアドバイスする制度もあるので、そういうところとご相談いただくっていう点で、その情報公開を社会教育でも重点化するっていう、多少関係してくるかなと思ったのでそれを付け加えておきます。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>はい。C 委員さん、どうもありがとうございました。</p> <p>私もまなび文化課で生涯学習の方を担当させていただいて、約半年ということで引き継ぎの方を十分させていただいております。</p> <p>おっしゃる通り、今回のその報告につきましてはこの推進計画に基づいて進行管理ということなのでこういう形態になっているっていうこともありますけれど、各委員さんからの話題提起っていうのは、その都度やはりアップデートされていくべきものが多分問題提起されているのだらうと思いますので、これにどう加えるのかはちょっと工夫していきますし、ちょっと資料の見方も、なかなかあちこちたりするっていうところもあるので、少し体系的に整理するっていう必要があるかなというふうには感じています。</p> <p>その折には次この第 4 次推進計画を改定するっていう時期が来ております。来年度からもうやらないといけないという時期が来ていますので、</p>
------------------	--

	<p>そういった話題というかテーマの整理、もしくはその向かっていく目的の整理みたいなのを含めてですね、そういう今のピックアップすべきテーマみたいなのも織り込んでいけるような形でちょっと整理をさせていただいたらと思います。</p> <p>それから、B委員からもご指摘があった人材バンクの特に活用について、登録は割とできやすい状態にあるのかなあと、皆さん手を上げやすい状態にあるのかなというふうに思いますけれど、課題としてはやはり、これを登録したときに登録する方も何をするのかっていう、どういうことをやろうとするものか、つまり活用をどうするのかっていうことがやはり明示されてないと登録だけしたって言うても、登録だけにしか過ぎない。私たちは登録してそのあと何をするのかっていうことが、やはり具体的に述べられないと、多分登録もしづらい。もしくは、こちら側としても活用のイメージがやっぱりできてないっていうのはありますので、そういったそのアウトプットできるようなものもイメージして、少し登録っていうことを考えれば先ほどのどういう情報を載せないといけないとか、どういうことが得意であるのかみたいなことも含めてですね、それが利用者に届けていくということに繋がると思います。つまり、もうアウトプットをイメージした形で、情報公開の方も少し考えていきたいと思えます。</p> <p>実際これ多分仕組みの方も変えていかないといけないし、例えば先ほど言いました通り市民講座のありようみたいなのも、昨年もこの学びをどう還元するかっていうことが1つ大きなテーマになっていましたので、そういったことも含めて、次の計画の改定も見据えながら、ちょっと考えていきたいなと思えます。</p> <p>そのような考え方で進めさせていただきます。</p> <p>委員 ありがとうございました。</p> <p>情報公開に関しては、すごくレベルの高いことを返答いただいたんですけど、私からすると、挨拶レベルのことができてないというレベルの話をしたので、そこもご検討いただければ、ありがとうございます。</p> <p>会長 ありがとうございます。</p> <p>なかなかこの人材バンク的なところって、活用がどの分野においても、登録はしたけどとか、養成講座は受けたけど、その次に繋がってないっていうっていう事例はたくさんあるかと思うので、今後の課題としてそこは見つけていけたらいいんじゃないかなと思っています。いろいろご質問いただきましたが、私からよろしいでしょうか。</p> <p>30 ページの少年団体指導者研修会の結果ではなくて評価のところでは</p>
--	---

	<p>が、補助金交付以外の支援については取り組みに至っていないという評価が出ております。具体的にその支援についての検討とかあるのでしょうか。結局、事業計画にもそれが反映されてなくて、同じような形でイメージされている気がするんですけど。</p> <p>現状はまだ補助金の交付にとどまっているというところがあります。今年度、生涯学習課からまなび文化課の形に変わったタイミングで、課長と一緒に少年団体の各団体の方にヒアリングをさせていただきました。今までの取り組みにおいては補助金の交付だけにとどまっている部分については、やはり各団体の方でも、不満というわけではないですがもう少し具体的な支援、広報の部分への協力だったり、そういったものもしていただけると、団員の確保に繋がったりとか、イベントを打つ部分での集客にも繋がりやすいのではないかとというような意見はいただいております。</p> <p>そのあたりにつきましては、すぐ取り組める部分もありますので、引き続き各団体とコミュニケーションをとり連携を図りながら、やっていけたらなとは思っております。</p>
<p>担当</p>	<p>支援している団体さん、私どもの子育て情報マップを作っていて、そこに活動団体として名前を挙げさせていただいていますけれど、なかなかどんどん縮小しているような状況なので、本当に必要なのか、協力して盛り上げていくのか、ちょっと先を見据えた、取り組みが必要ではないかなと感じております。</p>
<p>会長</p> <p>課長</p>	<p>今会長からのご意見ですけども、先ほど担当の方も申し上げた通り、実際にこの補助金を交付している団体に一件、一件ヒアリングをさせていただきました。</p> <p>実際にそのお金の問題っていうのはもちろんそうなのかも知れませんが、具体的にやっぱりお話を聞くと、お金というよりはやはり人材がかなり不足している、高齢化して実際に今までやれていたことがやれないから自分たちがこう思っていて、子どもたちにこういうふうに関わりたいけれども、やはりマンパワーがなくてできていないっていうようなことがあって、実際にその補助金で支援するというよりも、私自身直感して受けたのは、やはりそういう人材の後継者育成ですとか、もっと広く対象者を増やしていく、要はその子どもたちに届く情報をどうやって届けるのか、もしくは、本当に必要としているそういうサービスを必要としている子どもたちにどう届けるのかっていうようなことが、やはり課題だろうというふうに感じています。</p> <p>そういった意味では単なる情報発信というよりは、様々な課題ですとか、</p>

<p>会長</p>	<p>様々に取り組んでいる会長のところのようなNPOさんとか、地域の課題解決に繋がるような団体と連携していくっていうことが、割と裾野を広げていく1つの手段ではないかというふうに考えていますのでそういったところで、適切な情報を公開していくとか、提供していくっていうことが、まず私たちとして取り組めることではないかなと思っておりますので、できるところから取り組んでいきたいなと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>また、私からでいいですか。前年度、地域いきいき講座はすごい参加人数が多いので、5年度の目標値の変更をしました。1の(1)の主な社会教育施設利用者数も、かなり目標値からアップしているかと思うのですが、この目標値の改正とかは必要ないですかね。</p>
<p>委員 会長 課長</p>	<p>10万人も超えていますもんね。</p> <p>(目標値は)40万人だったけど50万人。</p> <p>数的な目標っていうのは、すごく大事なことだと私も認識しております、この目標値を変更するっていうことについては、なんら問題はないと思いますけれど、実際、私ども市の施設の、今からのことですけど、生涯学習センターが今年度いっぱいなくなる。それから新しい市民会館が令和8年9月からオープンするとの予定ですけど、例えばアイレックスですとかいろんな様々な改修とかが入ってきてまして、数字や目標値が変わってくるっていうのは、いわゆる、母数、分母が変わってくるので、今現状として目の前に見えていることなので、ちょっと目標値を変更するにあたっては少ししっかりした分析まではいかないですけど、計算は必要かなというふうに思いますのでちょっと今この場で何万人にするのは、ちょっと避けたいなと思いますけれど、新しい市民会館の目標値がまだ実際できていないので、そういったところも含めて考えたら、もう少しこれは再考いただいた方がありがたいかなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうでしたね、施設の改修とか、なくなってしまうとかっていうこともありましたので、安易にここの数字を変える必要はないと受け止めました。ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっとこれ、概況だからあれですけど、事務局の方ご存じだと思いますけど、図書館の利用者率を差し引いたら、要はそんなに大きな数字にならないって言ったら変だけど、図書館の利用者数数値が非常に大きな比率を占めますよね。</p> <p>それも内訳のどこかに入れておかれたらどうか。括弧数でもいいですけど。</p>

会長 委員	それぞれの施設の利用者数の記載ですね。 この中でいうと図書館が断トツに多いので、おまけとは言わないんですが、そこが微減なんです。今のところ、丸亀の図書館の方がね、だからそれも含めて目標値は据えおきたいなということでしょうけど、高橋委員がおっしゃる通り、10万人も差があるとどうしたのかなあっていうのも出てくるので、そういう不安もあるとは思いますが。
会長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。令和5年度の進行管理についての意見ということで、本来であればやはり前期のうちに済ませておいた方がよかったですかと思います。そこのところお願いします。ご意見がないようですので、議事(2)の令和5年度社会教育委員の会における協議テーマ、学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方についてのまとめについて事務局より説明があります。
事務局	配布資料の今日お配りした資料5をご覧ください。 事務局説明
会長	ありがとうございます。 先ほどC委員からもご意見いただいた前年度で協議していただいたまとめを今ご説明していただいたかと思います。
A委員	やはり担い手がない、そこを育成するためにはどうしたらいいかっていうことをみんなで話しあってきたと思うんですけど、それについて何かご質問、ご意見等はございますか。 前回言ったことの繰り返しみたいになるのですが、やっぱり若い人たちが参加してくれるように持っていく必要があると思うのです。そのためにはやっぱり、小学校中学校、高等学校みたいな、生徒たちが参加できるような仕組みを作って、保護者も巻き込んでいくっていうような感じで、年をとった人達と若い人達とをつなげて、仕事ができるようにしたらいいのかなと、提案をいたしましたけど、具体的には難しいところもあると思いますが、やはりそういうことも考えなければ、だんだん高齢化で人数が減っていくばかりで解決の糸口がないのではないかと。一度お考えください。
課長	ご意見ありがとうございます。 やはり私どもも本当にその世代間のギャップというか、私自身も若い人との感覚っていうのは、だいぶずれてきているところがありまして、私今回そのまなび文化課として生涯学習、それから文化芸術の方も担当させていただいておりますけれど、特に注力しているのは、やはりその対象者が誰であるか、それに応じた手段と、事業の中身、それと広報の方法、これをやはりリンクさせないと、本当に必要なところに届かない、も

<p>委員</p>	<p>しくは、やろうとしていることがマッチングしていないというようなこともありますので、その企画する段階ですね、事業を計画する段階で、やはりそういう対象となる方に直接やはりお話を聞くとか、そういうプロセスを経た上でやっぱり事業を展開していきたいなというふうに思っております。一気に全部の事業に対してそれができるかっていうと、なかなか難しい状況ではありますけれど、特に何か新しいことをしないといけない、もしくは大きい課題がある場合については、そういう小・中学生ってなかなか難しいですけど、高校生とかに、いろいろご意見を聞くチャンスってというのは、作っていて実際ちょっとやっています。</p> <p>うちの生徒もお世話になっています。</p> <p>やっぱり、ちょっとこれは、合っているかどうかわからないですけど、こういう仕組みは大分前からの仕組みであって、その時は人数が多かったんじゃないかなと。だから、生涯学習といえども、普通の学習っていうか生徒たちの学習とそんなにこう分けて細かく分けてしまえば、もう人数が減ってきたときに対応できなくなるのは当たり前で、まるっと協力っていうかな、そういうような形が取れたら、丸亀型、生涯青年学習型っていうふうな感じで、事業推進できる、事業を考えることができるんじゃないかなと思うんですけど、ちょっとこれはもう思いつきで言っていますけど。</p>
<p>課長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>この次の推進計画を策定するにあたって、やはりその国の教育振興基本計画、ああいったものをまずベースになって考えていこうと思うのですが、一方で、現実的にその市民の方が参加参画するところの具体性っていうのはやはり、もっとその砕けたものというか、わかりやすいもので対応しないとイケない。</p> <p>そういった中には、やはり多世代の交流というよりも、一緒に学べる機会っていうのが大事になってくるのかなと思います。</p> <p>一緒に学ぶっていうのは何かこう、年配の人は歴史好きで、若い人はインターネット好きやみたいなのそういうこちらの思い込みで取られるのではなくて、本当に学ぶっていうことを、まなび・探求の楽しさとか、もしくは大人も子どもも一緒に関わるってやっぱり、遊びの部分っていうのは多分必要になってこようかと思っておりますので遊びの部分とまなびの部分っていうのを、どうこうまくバランスよくとっていくか、そういった事業の感覚といいますか、方向性みたいなものは、少しちょっと新しい計画の中には盛り込んでいきたいなと思います。大人も子どもも多世代で共通するものが何かっていうのは、ちょっと考えていきたいしこの委</p>

委員	<p>員の会の中でもご議論いただければ、幸いかなと思います。</p> <p>学校ではそれが大分進んでいまして、中学校では総合学習、高等学校では探究の時間が入ってきまして、普通の企業さんに行ってその企業さんの問題を一緒に解決するとか、企業から実際にどうやって仕事をしているか学ぶとか、昔はよく高学歴の学校出ているけど座ったなりで、全然仕事ができないとかいうようなことも言われましたけど、(探求の授業は)文科省の方針からの流れです。うちの生徒たちも、それはまず乗っかって、授業でやらないといけないんですけど、訪問した企業さんの方たちは、子どもやからってという取りあげ方ではなくって、もう本当に本気で一緒に考えてくださったり、変な解決法で私も恥ずかしいって思うようなものがあるんですけどもう全然怒らないで、非常に話し合ってくださいたりしているんです。本当に探求の時間には感謝しています。企業さんがあんなに一生懸命になって考え、生徒たちを勉強以外ですけれども、教育するということに対して協力的なんです。もちろん協力してくれますかという企業にお伺いしてから行くんですけど。そういうことで、本当に助かっています。ボランティアなんかでもいろいろお世話になっていますし、そういうことを生涯学習と結びつけたらいいものが出てくるんじゃないかと思います。</p>
課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この先ほどの進行管理表の 18 ページにありますNPO企業大学等の積極的な連携協働、こういったあたりに、もう言うだけとか情報提供だけにとどまらず、ちょっと仕組みを考えていきたいなと思います。今の先生のご意見を参考にしながら、何かできるところから、1つモデルケースをやってみると、ちょっと問題も課題も、新しい目的も見えるような気がします。まずは仕組みをちょっと考えていきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>学校教育の中でできること、社会教育の中でできることいろいろと変わってくるかと思いますが、社会教育の場だからこそできることを皆さんに検討していただけたらと思いました。ありがとうございます。他にないでしょうか。</p>
委員	<p>はい。関連して。</p> <p>A 委員さんがおっしゃったPBL、プロジェクトベースドラーニングというやり方で、大学等も含めて、いろんな知恵を大学と民間企業との学習プログラムみたいなことだけど、実践して例えばため池でおかしくなっているのをちょっと新しく制御するドローンかなんかを使った事例</p>

を学生と一緒に何かやるとかね、まずそういうとこまでできているところもあるし、そこに何かこう、ある種そのアドバイスというか、コーディネーター的に生涯学習の部署が関わったりもするって事例は多分PBLっていうので、地域事例みたいなので探したら多分出てくると思うんですけど、私常々思っているのは、そういうものももちろん大事なんだけど、一方でマルタスの存在っていうのは、何かうまく活用できるものはないのかなというのを感じていて、昨年振り返りの議論でも、担い手育成の話でコメントしたことが書かれていたし、今A委員さんからも非常に懸念があるっていうことをおっしゃったし、村尾課長ですねこの分断みたいな世代間の分断どうするかっていうと、例えば善通寺にZENキューブっていう公民館をコワーキングスペースしたところがありますよね。あそこは、高松でもその穴吹の関連の人たちが指定管理して、割といわゆるその場所の管理している人が企画を打っていて、それで良くも悪くも一定の人を集めるという集客をした上で、そこから先に繋がるかもしれないし、繋がらないかもしれないっていう。そのあたりから探っていく事例を、善通寺でも月1ペースで、やったりしているんだけど、それで言うとマルタスさんは一定期間人を集めたりとかもしているし、あと偶発的だけど、生徒さんも多いけど、多分コワーキング的に自然に利用している人もいると思うんですよ。私もここで事務仕事するしね。よく見たらそういう人が一定数いて、そういう年代っていうのは多分30代40代ぐらいの人で、個人事業主的な方含めて、結構活用しているんだけど、それが何かこう、直接関係しないにしても、何らかの組織化というか、協力を求めるような取り組みをマルタスさんとタッグ組んで何かやるって可能性はないのかな。

ただ市民活動センターなので、市民活動センター上の登録はあると思うんですよ。

それと別にコワーキングエリアとしてここを使っている層が多分いて、或いは2階のキッズスペースなんていうのは非常に出入りが多いから、何らかの接点はないのかなあという。僕も何かあるわけじゃないんで、ほんと投げっ放しで申し訳ないんですけど。

何かもったいない気がしているんですよ。そのあたりが例えば善通寺のようなZENキューブのように顔が見える形で集約するというのがベストかどうかわからないけど、ひとまずそういうあり方で集約の1歩手前ぐらいの準備をするというのものもあるだろうし、ちょっとその辺り、マルタスさんと協議するというのは、どうかと。

指定管理者と行政がちょっと平場で議論になるかどうかわからないけれ

会長	ど、ちょっと思っている次第でした。ごめんなさい。はい。以上です。
委員	はい。ありがとうございます。マルタスは市が管理していますよね。
委員	うちの生徒たちもたくさん使わせていただいてありがたく思っています。
委員	さっきの人材登録の改善をワークショップで企画してみるとか或いは防災マップづくりしませんかとか、そういう呼びかけをする何かがあると、すごく集まりやすい場所ではある気がするんですけど。何かないと集まらないと思います、ただ言っただけでは。
課長	ありがとうございます。
課長	やはり人が集うっていう今状況には非常にあって、このマルタスが持つポテンシャルがその雰囲気も含めて、集ってくると。ただそこから交流するとなると、やはり交流するだけのエネルギーであるとか、プログラムがやっぱりこちらの方で構築されていないと、交流まではなかなか行かないで、もっと言うとその例えば課題とか、行政が抱えている問題に対して解決するに至る、解決策としてのその集約みたいのところまで、もしくは組織化ぐらいのところまでいくと、かなりやっぱり関わっている方いらっしゃる方のモチベーションですとか、いろんな要素がやっぱりこう盛り上がってこないとやっぱりそこまで修練できないっていうのは多分事実だと思います。
委員	でも、新しい市民会館も含めてここもそうですし新しい市民会館の色分けというのは、両方で両方にアクセスをして、市民会館の方は生涯学習も文化芸術活動も含めてそういうプログラムを提供しながら集めて課題解決していくっていうような事業もやっていこうとしていますので、そこそこが両面でこう機能できるように、言うばかりでもいかんし、情報発信だけとどまるだけでなく、やはりプログラムをきちっともう織り込んでいくっていうことが大事かなと思いますので、今のご意見も参考にしながら、指定管理者の方にも、この指定管理者も新しい市民会館の指定管理者の方にも、しっかりと議論していきたいなと思います。
委員	ありがとうございます。プログラムは大事ですけど、さっきのPDFの例で言ったら、もう挨拶ができてない状況ですよ。プログラムを用意するって言っている側が、それをもうヒントを手助けしてくださいぐらいのレベルで言ったらどうかというご提案です。
会長	その他ないでしょうか。
部長	マルタスにおける、成果的な内容とかの公表はあるのでしょうか。
部長	ありますね。
部長	自治推進委員会というのがありまして、そこにマルタスの運営状況につ

<p>委員 部長 会長 委員</p>	<p>な募集をしたりしています。</p> <p>いろいろな学校の生徒さんのもありましたね。</p> <p>そうですね。はい。近隣の学校からもご参加いただいております。</p> <p>ありがとうございます。マルタスが目的にそった成果を上げているというのは、すごく嬉しいです。</p> <p>コミュニティ活動で、ちょっと前回の意見のところ、出ていますので、最近の動きを話しておきます。一昨日、秋祭りだったんですけど、若い人と一緒にやるということで、いろいろ考えたんですけど、結局リーダーを若い人になってもらうということと、それから実際の秋祭りの運営上で子どもたちが参加できるものは何かということをしっかり考えてもらって、それを実践したんですけど、割と成果が出たような感じで、結構評判は聞くんですけど、よかったよかったと。</p> <p>どういうことかというと、今年の私ども城坤コミュニティですけど、役員さんの会長、副会長、その辺も若手も入れようということで 40 代の人、30 代の人、3 名ほど入ってもらって、その人が中心になって企画をしたんですけど、我々今まで考えとったことと、もう全く違うやり方ということも、どんどんやっていってくれまして、ちょっとこれ任してええんかなっていうちょっと不安もあったんですけど、結果的には全部任したら、全部順調にあって、その順調にいった中身としてはですね、小中高生との連携というか一緒にやると、そのときの例としたら、祭りの最後に抽選会があるんです。</p> <p>今までは、おじいさんたちおばさんたちが券を引いて当たりましたってやり方をしていたんですけど、そのPTAの役員の方が中学生 30 人ぐらい集めて、後ろに並べて何するのかなと思ったら、舞台の後ろに並んでその子たちに抽選を順番にしてもらおう。これ 1 人がやるんでなしに、順番に出て来てもらって、引いては何番言うだけの単純な作業なんですけど、これやったらえらい中学生に受けたというかね。</p> <p>ものすごく喜んどるんですよ。自分たちが引けるんやということでね。</p> <p>それで、こういうことで盛り上がるんだなって、ちょっと新しい発見したんです。</p> <p>あんまりこう理屈で計画をして、子どもたちにこうしてもらおうというよりは、もう現場現場で、ひらめいたことで子どもたちに提案してみて、子どもたちは結構反応が早いですから、もう嫌な場合は嫌、やる時にやるということなんで、それでやったらね、たかが、抽選引くだけの話だったんやけどね、ちょっと呼びかけたらほんま 30 人ぐらい来ていました。順番にやって、もうニコニコしながらこうやるからね。</p>
-------------------------------------	---

なるほどなということを感じ、それがついー昨日、ということだったんですけど。

それとあともう 1 つは城坤小学校と連携をやるために地域コーディネーターがおいでなんですけど、また違う視点から考えて、神社の改修工事がほぼ終わって、落成式をやるという話が出たときに、今まで神社には、子どもたちはほとんど来ないんですよ。だから校長先生とも今話をしておるんですけど、落成式に子どもたちの企画を入れて、できれば授業という形で、体験してもらうことを提案したんです。PTAにも話したら、それはいいことだなということで、大分乗り気になってきたんですけど。案外身近にあることを、あんまり難しく考えずに、子どもたちが来たら喜ぶんじゃないかってもう単純なところからやってもね、案外来てくれるなっていうのを二、三感じたんですよ。津森神社のことで、具体的に言うと小学校で今度 11 月 16 日に、防災教室をやるんですけど、それはもう授業としてやってくれということですね、話したら校長さんもわかりましたと言うことですね。地域防災の人がおって、手伝いに行ったりとか、県の防災士が来て講義したり、実際に 5 項目に対して訓練するんですが、それで地域の防災関係、コミュニティの自主防災の人達が応援に行くと。そこへ、せっかくやから、近隣の自治会長に話し掛けよなんですけど、そういう体験をしながら、地域と子どもたちが案外結びつくかな。校長先生がすごく積極的にやってくれていて、それもぜひ成功させたいと思います。案外そういう身近なところで、子どもたちをどうやって巻き込むか言うたら変ですけど、参加してもらうかという、単純なことでもいいんじゃないかなと思います。

計画をどんどんやったりしても、なかなか思う通りいかんしね。やっぱ大人の発想と子どもの発想は全然違うからね。そういうことは、つい最近体験してああなるほどと思ったんです。それともう 1 点はね、だんだん自治会も減っていくしね。

例えば、お年寄り、うちの自治会でも 3 ヶ月ぐらいでね、5 人ほどが亡くなる。

要はですね人を見るときに、これ私自身の考えなんですけど。

初めて参加してくる人たちと、それからちょっとそのことがわかって行事のお手伝いしようかという我々から見たら担い手になってくれそうな人と、それと現実に今活動している人たちの 3 グループに分けて、それで最終的にリーダーになっとる人については後継者ということですね、必ず後継者を探してくれと、私も探しているんですけど。

そういう形で活動する集団をどうやって作るかっていうときに、そうい

	<p>うある程度分類してみたほうが、わかりやすいなど。というのは、いろいろ活動し始めたらね、やっぱりみんなに声かけるときに、手伝いしてくれという言い方をするんです。いや、手伝ってくれって言ったら手伝い済んだら終わりやから、そうでなしと一緒にやりましょうということですね、話してくれっていう。それやったら次つながりますからね。手伝いしてくれって言ったら手伝ったら終わり。それでこう分類しながら、ある程度人を見分けるという悪いですけど、3グループぐらいに分けて、この人は今この段階だなということの分析しながら、やっていったら、割と自分の頭の中の整理ができ始めて、後継者がおらなんだら困るということで頭を抱えておったんですけど、割と出てきて、やろうかっていう人もできて、副会長になろうかとかですね。いつも自分が大変やから、何か手伝ってもらおう人という言い方じゃなしに、そういうふうな見方をすればちょっと気持ちが整理できたかなと思います。</p> <p>最後もう1つですけど、自治会が思うことはね、個人情報保護がものすごくも障害になっているんですよ。障害って変ですけど、なかなかその家の中へ入りにくくなって、そこら辺がちょっと難しいところですけど、私の方では近所は個人情報、漏れ漏れでもええよと。語弊があるかわからんけど、言いたくないことは言わんでもいいわけやから、例えばあそこのおばあちゃんがちょっと病気気味やとかね、その辺はお互い共有してないとね、何か助け合いする時にできないんですよ。声をかけず、亡くなって1週間ぐらい全然ね、気がつかなかった、これは大変だっていう話が出たんですけどね。市の方からの指導は自治会の名簿はほかに見せたらいけないとかいろいろ言われるんですけどね、自治会名簿を見せなんだら、どうやって人づくりするんですかっていう話なんですよ。そこら辺の個人情報をあんまり過剰意識すると、仲間づくりとか人づくりもできへんなあという。</p>
委員	<p>やっぱりその名簿なんか、難しいですよ。やっぱりそれについて苦情言う人は出てくるのね、必ず。こういう被害を受けたとか、被害受けてなくても言うてくるという。そういう人が想定されるんです。学校なんかでも名簿を同窓会が作ってくださるんですけど、住所なんか書かないでほしいとか言うと、名前だけになるし。すごい悩ましいことです。</p>
委員	<p>私が考えたのは、名簿っていうのは1つのあれなんですけどね、名簿でなしに、話の中でもね、あそこのおばあちゃんこうやでとかいう話を寄ったときにどんだんしたらいいんじゃないかと。名簿と別の問題ですからね。</p>
委員	<p>文字に起こさなきゃいい。</p>

委員	<p>それでやったらね、結構流れがよくわかって、あそこはもう草がよく入っとるけど、どうなったんやろうかっていうたら、ちょっと体調悪げだねとかいう話が入ってくるんですよ。なんかその辺も人づくりとかね、地域づくり、結局はもう人間関係をどうするかですからね。いろんな行事は、だからもう、コミュニティでもそうですけど、自治会でもそうですけど、私が思っているのは行事はやりたいことをやったらいいだけのことであって、失敗しても構わんと。成功したらいいのかもわからんけども、成功するために、皆で手を出しながら、失敗してもええんやとそこでやる人たちの人柄をわかってくれば、そのあとまた人間関係が続いていっていったらということで、もう割り切ってもうどんどんやりたいことやったらええがなというふうに好きなようにやってもらい、だからちょっとテーマから外れているかもわからんですけど、1つ言いたいのは行事をやるのは何かイベント屋さんになるんじゃないしに、人づくりさえできればもう行事は何でもええんやという、極端ですけどという感じがすね。</p>
課長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今おっしゃられていたようなことって課題でもあり、その取り組みに、組み込めるものでもあるというふうに思っています。特に何もきちっとせないかんという部分もちろんありますけれど、一方でそのコミュニティで許される範囲のところ、関わりの程度、ハードルを下げて、皆さんが関わりやすくするっていうことも大事ですし最終的にはやはりその学びとかを通じて、どうやってコミュニティを作るかっていうようなこと、つながりを作るかっていうことが本当に大切だというふうに思いますので、そういったことも、何かしらこの計画の中に上手に盛り込めるように、それがあ意味数値化はできなくても計画を進めていく、事業を進めていく中で少しく変化が起きてきたよってということがわかるようなものとして、少し今後考えていきたいなと思います。よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>D 委員のコミュニティ協議会のところでは、かなりいろんな若い人が関わったり、子どもたちが関わったり、うまく人を巻き込む手法がされているので、そういうのが他のコミュニティに広がっていったらいいんじゃないかなあと感じました。</p> <p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>そうですね。今の話に関連してエコシステムができていればいいと、生態系。</p>

<p>会長</p>	<p>だから、D 委員さん奮闘されているようなスタイルで広がって行って、やりたいなっていう人が作っていくのもあるし、そこは苦手だな、苦手だけど何かやりたいなっていう人の受け皿もちゃんとあってっていう、そういう生態系ができるのがいいでしょう。</p> <p>いろんな場がね。まだ多分そこまで行ってなくて、D 委員さんが奮闘されているので、ひとまず足場を作んなきゃいけないとか、そういうレベルだけど、最終的にはエコシステムみたいな感じで生涯学習の生態系ができればいいかなと思います。</p> <p>はい。ごめんなさい。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>次年度の計画にいろいろ反映できるものがたくさんあると思いますので、取り組みの内容とか、評価指標とかというところの改革につながるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。それでは、大分時間が過ぎておりますので、報告の方に移らせていただきます。</p> <p>報告(1)生涯学習センターの閉館と代替施設等についての説明をお願いいたします。</p>
<p>担当</p>	<p>資料 2 をご覧ください。昨年度からたびたびお伝えしておりますが少し変更点等ございますので改めてご報告をさせていただきます。生涯学習センターの閉館と代替施設等についてです。閉館時期につきましては、これまで令和 6 年度末としておりましたが、生涯学習センター解体工事の契約が令和 7 年 6 月定例会で議決見込みとなりますので、令和 7 年 5 月末に、閉館時期を延伸しまして、施設の有効利用を図りたいと思っております。各施設を一般利用できる期間ですけれども、1 階ギャラリーにつきましては、令和 7 年 3 月末まで、ギャラリー以外の部屋につきましては令和 7 年 5 月末までとしたいと思っております。期間の違いにつきましては、1 階ギャラリーにおいて、4 月以降は閉館記念イベントなどを指定管理者が自主事業として行う予定ですので、一般への貸し出しを 3 月末としたいと考えております。</p> <p>次に 2 番の生涯学習センターギャラリーの代替施設についてです。生涯学習センターの代替施設としては、土居保育所を設定しておりますが、ギャラリー機能につきましては、面積や展示する条件が十分でないことから、昨年度より中心市街地の民間施設を借り上げて対応することとしておりました。今年度になりまして、新たに駅前周辺に条件が整っている物件が複数できましたので、現在は契約に向けた交渉を進めているところでございます。契約期間につきましては、令和 7 年 4 月から令和 8 年 9 月までといたしまして、ギャラリーとして最低限必要な設備、</p>

	<p>器具等の改修工事を契約後 1 ヶ月間、使用後の原形復旧に伴う撤去工事は令和 8 年 9 月の 1 ヶ月間を予定しております。従いまして使用期間につきましては、令和 7 年 5 月から令和 8 年 8 月までを予定しております。次に 3 番の生涯学習センター・貸館（ギャラリーを除く）の代替施設についてございます。先ほど 2 番でもお伝えしましたが、土居保育所でございます。</p> <p>土居保育所につきましては、今年度末まで保育所として運用しておりますので、それ以降につきましてはまなび文化課の所管施設として、新しい市民会館がオープンするまでの期間、管理運営をする予定でございます。</p> <p>管理期間については、令和 7 年 4 月から令和 8 年 8 月までを予定しております。</p> <p>保育所のトイレですとか、カーテンの改修を令和 7 年 4 月の選挙終了後から 6 月までとしまして、7 月から運用を始めたいと考えております。従ってギャラリーについては令和 7 年 4 月、その他の部屋につきましては令和 7 年 6 月のそれぞれ 1 ヶ月間はご利用できない期間となっておりますので、関係団体等へ周知しまして、協力を求めて参りたいと考えております。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
	<p>ただいまの説明について、ご質問、ご意見等はありませんか。</p> <p>市民会館が令和 8 年 9 月に延びましたよね。その生涯学習機能も市民会館の中に移るということで、かなり年月があるんですけど、もう少しこの生涯学習センターの解体を延ばすみたいなことはないですか。</p>
課長	<p>この生涯学習センターはアスベストを使っておりまして、解体に 1 年ぐらいかかるというふうに考えています。ここを先に取り壊した後、駐車場として確保するっていう、まず 1 つ大きなポイントがありますので、早めに解体させていただいて、1 年半ぐらいは、他のところという対応させていただいたらと。まずはやっぱり駐車場がないことには、新しい施設ができて対応できないということになりますので、そういったスケジュールで進めさせていただいております。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>生涯学習センターの入込数を一応示して、諮問した上でこれだけやから 1 年間やったらまあ何とか分散できますって言うてくれると、多分今おっしゃったような不安はある程度解消できるかなと思ったりもした次第です。お答えは大丈夫です。</p>
課長	<p>はい。利用者については、主な使用者については周知をしておりますの</p>

<p>会長</p>	<p>で、それこそ、コミュニティの方へいろいろご迷惑をおかけしておりますけれども、受け皿については何とか対応できるかなというところです。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>続きまして、報告（2）令和7年丸亀市二十歳の成人式についてご説明をお願いします。</p>
<p>担当</p>	<p>引き続きまして資料3をご覧ください。</p> <p>令和7年丸亀市二十歳の成人式につきましては、1月12日日曜日開催を予定しております。社会教育委員の皆様につきましては、12月の頭ごろ、またご案内の方出させていただきますので、ご多忙のところ申し訳ないですけれどもご臨席いただけたらなと思っております。今年度につきましても、場所はアイレックスになります。</p> <p>今年度の対象につきましては、平成16年4月2日から平成17年4月1日に生まれた方で、4月1日時点の対象者につきましては1086名となっております。</p> <p>今年度実行委員会につきましては、13名の方が登録していただきまして、出身中学については以上の通りとなっております。本島中学校の出身者の方は、実行委員会の中にはおられないですけれども、それ以外の中学校の方からは、各1名以上は登録していただいている状況になります。</p> <p>会議につきましては、9月13日と10月12日、2回開催しております。式典等の役割分担でありますとか、アトラクションや情報発信の方法などについて協議を進めております。以上になります。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。ただいまの説明について何かご質問ご意見はありますか。例年と変わらないという感じでしょうか。</p>
<p>担当</p>	<p>今のところは。</p>
<p>会長</p>	<p>続きまして報告（3）令和6年度市民学級について説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>お配りしています令和6年度市民学級のパンフレットになっております。</p> <p>令和6年度は32講座、開催いたしております、申込者数は598人でした。</p> <p>こちらの講座の定員はもともと775名の定員でご案内させていただいておりますけれども、会場の利用範囲で増やしても大丈夫ってところはちょっと増やさせていただきまして、結果的には今、延べ792人の方に受講していただいております。内容につきましては、生涯学習センターの指定管理者が事業しているものが2ページ分（1～13番）、一番右（14～18番）が飯山総合学習センターですが、こちらも指定管理者が事業し</p>

	<p>ているものの講座になります。特別教養講座（19～26 番）はまなび文化課の方で運営している講座になります。こちらの方で、25、26 番がオンライン講座として実施しております。後ろのページ（27～32 番）が提案型の講座でして、先ほども説明しましたがけれども、企業、団体、NPOさん、大学校さんから提案していただいて、講座を開設しております。32 番のデジタル技術×ガーデニングは、リスキニングっていうところで先生の方でご指導いただいて、ガーデニングに関して、温度とか気温とかを測って、自動で水やりするっていう、パソコン上でそういう技術を学んでいってもらいました。</p>
<p>会長</p>	<p>説明は以上になります。 ありがとうございます。 ただ今の説明についてご質問、ご意見等はございますか。 これいつも思っているんですが、年度初めに申し込みが締め切られますよね。 途中見てこれやって受けてみたいなと思われたときは、定員達してなくても入れないのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>定員に達してない分は 2 次募集しました。今回は子育て世代の 25、26 番がオンライン講座になるんですけども、ちょっと定員が足りなかったので 2 次募集をしました。</p>
<p>会長</p>	<p>どういった形で 2 次募集をされたんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>25 番の方は健康課さんの方で、検診の時期があるので、その時にお母さんに配っていただいたりとか、あとはマルタスのここにちょっと置かしてもらったりとか、そういう周知はしました。</p>
<p>会長</p>	<p>2 次募集で増えましたか。</p>
<p>事務局</p>	<p>少々は。講座の内容ですけれど、オンラインで受けるよりは受講して骨密度の検査ですとか、ちょっとそういう体験型の講座にもなっていたので、実際に来の方が身になるというか、どうしても時間が取れない方はオンラインで受講されました。</p>
<p>会長</p>	<p>健診の時に来られる親御さんってなると、赤ちゃん世代のお母さん方になったと思うんですけど、子育て家庭への講座を提案するときには、託児を実施するとかそういった視点を持ったほうがいいのかなど。</p>
<p>事務局</p>	<p>一応託児の方は募集時にご案内はさせてもらっています。ただ実際のところ、今年度は託児の申し込みはありませんでした。こちらの子育て講座については、お子さんと一緒に参加したお母様もいらっしやっして、急には難しいですけども、一応対応はしております。</p>
<p>委員</p>	<p>ちなみにこれ締め切った後で問い合わせみたいなのってあったりしまし</p>

事務局	たか。 あります。
委員	やっぱりニーズには適っているということですよ。
事務局	ちょっと募集期間が短いっていうのは、どうしてもちょっと限定されてしまうかなっていう問題は感じております。定員が達してない分については、申し込みが事前でしたらお受けしています。
委員	ありがとうございます。
会長	最後になります。5番目その他ですが、事務局から何かございますか。
事務局	大丈夫です。
会長	報告については以上になるんですけど、委員の皆様から何かあればどうぞ。
委員	これはお願いという形になるんですけども、今年の4月1日から子育て中の保護者を支える認定資格「こども家庭ソーシャルワーカー」というのがこども家庭庁を中心になってやっていくことが、大きく新聞の方にも取りだたされていて、保育士とか社会福祉士とか、今までそういう資格を持った上で、講座、研修を受けて、専門機関で試験を受けて合格すればこの資格をいただけるということになって、家庭庁の方からも、何か研修を開催するにあたっては、補助金を出すようなことも新聞記事に載っていたんですけども、丸亀市がこのことに関して子育て支援課が中心になると思うんですけども、どういうふうに行われる予定があるのか、もしないというか、まだちょっと想定されてないのであれば来年度でもちょっと考えていただけたら、そういう資格を持てばまたいろんなイベントとか、地域での行事でもやっぱり活躍できる人が少しでも増えるのではないかなと思うのでお願いします。
課長	ありがとうございます。 まさにこれ今問題になっているというか、本当に課題になっている人材の発掘、人材の育成、そういったところに我々の事業が使えるのであれば、別段その子育て支援課でやらなくても、間口を広げていくっていうようなことで、まずは対応している所管課の方にも、今の状況とかを確認して、できるようなことであれば、どんどんやっていきます。 これも子育てに限らず、他分野もしかるべきものがあると思います。
委員	ありがたいです。
会長	県の方が家庭教育支援チームっていう家庭教育を進めるチームを作って、いろんなところに出向いて行って、子育てを支える取り組みがあるんですけど、それが丸亀はなかなか進んでないし、県の方もなかなか曖昧なんですけど、そういったところも、知っておいていただけたらなと

事務局	<p>ということです。その他にないでしょうか。</p> <p>ないようですので、議事進行を事務局のほうへお返しします。</p> <p>会長ありがとうございました。</p> <p>次回の会議は12月を予定しております。</p> <p>また日程が決まり次第、ご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>以上で令和6年度第1回丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。</p> <p>委員の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。</p>
-----	--